

・講習テキスト

5、考察

(1) 巡回指導

今回の憩いの広場管理事業は、約4カ月の間14回の巡回指導を実施したが、予想以上の成果が出たと考えている。

活動開始までは、憩いの広場の管理はある意味、野放しの状態であった。

時期的に夏・秋野菜栽培が最盛期で、全体の野菜作りの状況が良く観察できたため、区画毎の利用の良し悪しが判断できた。

毎回の記録表の評価を区画毎にまとめた結果を集計すると、以外にも特定の区画のみが浮上してきた。これらを基にして、悪質な区画に対しては市担当者から数回の改善指示を出していただき様子を見ることにした。(区画表示は省略する)

結果としては、活動終盤にはかなりの区画が改善してくれた。

活動は2月で終了したが、以後は春先に向けて畑作業が開始される。また新たな問題点が出てくることも予想されるが、次期管理活動の開始までは、集計表で浮上した問題のある区画を重点的に絞って管理できるのではないと思われる。

(2) 維持修繕

①区画線と杭

6カ所の憩いの広場の施設で、区画線と杭の破損した区画はかなりあり、区画によっては利用者が独自に修繕している。今回は、材料調達が間に合わなかったため作業ができなかった。次回活動までに材料を揃えることをお勧めする。

②境界柵杭

境界柵がある憩いの広場は3カ所で、全体の柵杭が根元で朽ちており既に倒壊した箇所もかなりある。今回の活動で応急的に添え杭を打ち、番線で固定したが万全ではない状態である。次回までに材料を揃えることをお勧めする。

今回の管理活動を通して、畑は生き物であることを実感した。利用者が楽しく愛情を注ぎながら作られた野菜は生き生きとしており、形も良い物であった。しかし、そうでない畑の野菜はなんとなくみすばらしく見えていた。

今後共、憩いの広場を利用する方々の満足度を上げるべく、施設を整備しながら栽培指導ができればと切に願うものである。

以上